

---

# 戦国basara！？ いや、けど性別が……

貧弱戦士

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

戦国basara!? いや、けど性別が……

### 【Nコード】

N5036Z

### 【作者名】

貧弱戦士

### 【あらすじ】

『桐生 竜間』という男性が戦国basaraというのが好きすぎて、ファンとなってしまう。彼は思った『俺もbasaraの世界に行つて、大暴れしてえ』と。そんな彼はある日、目を覚ますと関西弁を喋る人が現れた……

## プロローグ

「さっすが伊達だ……。無駄にカツケエのがムカつくが」

オツス！ オラ……。じゃなくて、俺は桐生 竜間でーす！！

まあ、何となくこの小説の主人公職業でございます……。って、何か今俺変な事思ったか？

ただいま俺は最近出た『戦国basara』っつー新しいのに夢中でしょうがねえんだ

俺もこういう技使いたいし、何か憧れる世界なんだよな

「しかし、何で今の日本はとっても嫌な時代になったんだろうな」

地球温暖化とか、地震とか……。戦国時代にはもつと小説的みたいなのが起きたんだ

平和はいいが、それもそれで……

「俺も行きたいぜ。こういう二次元的世界に……。つか、もし言ったら死ぬな、俺が」

ゲームを一旦止め、ベッドにごろんと横たわる

最近寝ていないからな、目がだんだんと閉じていく

そしていつのまにか俺は目を閉じ、夢の世界へと走って行った

「おまえさんかい！！ そんな夢も希望を持っているのは！！」

「……………へ？ あんた誰」

目を開ければ俺はベッドの上ではなく、机にちょこんと座っていた  
そして目の前にはイケメンだが、多少俺に負けるが……俺の方が  
アレだし？ アレだよ

「お前さん……。悲しくないんか」

「うるせえ！！ オタク的に言うと、『リア充氏ね』だ！！」

「ワイ、この数百年間彼女おらんで」

それはそれで、俺以上に落ち込んでいる誰かさん

俺より空しいな……。ん？ 数百年間？ は？ つか此処何処！？

「自己紹介がおくれたな。ワイは瞼つつーもんや。上司の命令で、  
お前さんを連れてきたんや」

「瞼？ 上司？ 連れてきた？ ……は！？」

その時、俺の少ない脳みそでも理解できた

「お前……。まさか、誘拐犯か！？」

「……まあ、バカはほおつといて、話に進で」

「あれ？ 無視ですか。ああ、無視なんですな。いいですよ、どう  
せ俺なんか女の子に無視され続け、最近妹からも無視され続けてい  
るダメダメな下半身一度も使ったことがない男だから……」

「バカなのかアホなのか、わからんたってもうたわ。急にネガティブになって」

そういえば、妹が最近俺に冷たい視線向けてくるな……

あいつ彼氏できたって聞くし、はは。終わった。先越されたし

「実はうちの上司が、100年に一度人間の願いを一つ叶えるつーのがあるんや。それで、何とお前さんがその100年に一度叶えられる一人だけのラッキーボーイなんや」

「神よおおおお!!?? 何で俺をイケメンにしてくれなかったんだあああ!!!!」

「お前さんも一応顔はいいのに、そんな性格だからモテないんや。いいから聞け!!」

「え? 君そんな事言ってくれるの? いや、褒めてもなんもでねえよ そうだ、今度俺のお気に入りに 動画を見せてや「じゃあかしい!!」」

な、なんだよ急に……

カルシウム足りないんじゃないのか!? 牛乳飲め!! しかれば、カルシウム一杯取れるぞ

「はあ……はあ……。なんや、あの野獣みたいなお人やな。お前さんの願いはなんや。率直に問う」

願い……願いねえ

あ！？ アレならどうだ？ けど、叶えられるはずはねえーよな？

「俺を『戦国basara』に転生してくれ！」

「ほな、転生やと何かと付属的なのが付くんやけど……どないします？」

「んなのいるか！！ 俺はんなセコイ事はしねえよ……いいから、早くしやがれ」

さあ、これで俺の今の願望はかなう。大暴れしてやるぜ……

つか、その前に生きてられるかな？ 死んだら元の子もないぜ。ま、いいや

「さあ頼むぜ。瞼さんよおー」

「（変わったお方やな。あの獣代はんと違い、なんも力はないのに付属的なのをいらないやんて……）じゃあ行くで！ 『桐生 竜間 ゼウスの承諾により、転生を許可する！！！！』」

俺の周りが光り輝きだし、だんだんと風が強くなり始めた

そして竜巻が起こり出して、耳に聞こえるのは全部風の音

『バチ！！』

「！？ な、なんや！！ 陣に何故か傷ついておる！！ これは……

……！！！！！！」

「え！？ 何！？ あんか今、スンゲエ電気音みたいなのが聞こえたんだけど！！！？？ 心配ないよね！？」

「……………ドンマイ」

「ドンマイじゃねええええええええ！！！？！？？」

そして、俺はそこから消えた

絶対あの賤の奴、殺す。いや、殺されていていいほど甚振ってやる…  
…！！ 俺を怒らせたのだから

「オギャアアアアアア！！！！（はい、お決まりのパターン！！！！）



┌

俺は既に前までの姿ではなく、赤ん坊となっていた

俺を抱いて微笑んでいる女性と、それを見て笑っている男性

本当に、b a s a r aの世界か？

## プロローグ（後書き）

感想をください！

## 第一幕 俺が転生した所はかなり強者!?

おいっす！　ども、皆さんの心のアイドルを気取っている桐生  
竜間でーす

苗字も名前も前のの同じで安心したけど……まあ、何というの？

両親？　が、何か凄いだよ？　俺が住んでいる所は『京』とい  
う天皇が住んでいる所なんスよ

それが、何と俺ん家道場なんだよ。俺のパパ、パイロットみたいに  
で……

「これ！！　どうした竜間！！　それじゃ、武将にもなれんぞ！！」  
「うるせえええ！！？　俺は一応一般兵希望なんだよ！？　この腐  
れ　野郎！！」

「たわけが！！　お前は『桐生家』の息子ぞ！！　代々家は、この  
『恵まれた体』を使い、所々の大名達に身を置いたもんぞ！！　し  
かし、お前にはそれはない！！」

きっぱり言いやがって……！！　パパ怖い！！

一応俺の親父『桐生　龍二』。『京』では最強と名乗っている、  
頭がアレな親父だ

ん？　今俺は何しているかって？　会話文通り、ただいま

「修行なんぞこりこりだああああ!!??」

「サボるなバカもー！ーん!!!!」

親父はかの有名な大 部長の如く、俺に怒鳴りつけた

見た目が20代なんて、ありえねえよ

あの髭!! 鼻下にある短い髭!! あれが語っているよ!!??

「いいから、ちゃんと修行せんかああああ!!!!!!」

「ぎゃああああ!!?? 子供でもトラウマ生みそうな形相で、

俺に迫ってくるー!!?? こういう時は撤退だー!!!!!!」

脚を思い切り全開で働かせ、道場から俊足で出ていき市場へと出て行った

ちくしょー、あの糞親父。ぜってい顔にウ コ着けてやる

「くそ。なんであいつは逃げる時だけ、走るのが早いんだ……!!

」!

「おう！！ 坊主、今日も親子喧嘩か」

「おや、タツちゃん。 どう？ 今度家で、食事しない？」

「龍二さんの息子か。 親父さん元気か？」

市場へいくと、店の人や行きかう人たちが俺に話しかけてくる

ふっふっふ、人気者は辛いですな」

ま、とりあえず夕方までここら辺で時間でも潰そうかな

まだまだ俺の歳じゃ、戦にも出れないし……。早く暴れてえなあ

「うえ〜ん!! とし〜、まつ姉ちゃん〜。何処〜!!」

「……………ふ、まだ餓鬼か」

俺に話しかけるには、まだ十年遅いぜ

中心で泣いている女の子を無視して、そのまま足を進ませる

「ひっぐ……………」

「……………」

「うう、人が大勢だから……………わがんだいよ〜」

「……………」

神よ、俺は今試されているのか？ 出来れば、5文字以内に答え  
てくれ

『はいそうです』

おいしい!! 6文字だったぜ!!



あ、あの時は……親父と喧嘩して家出して何れは探しにくるだろうと思ったが、夜中まで誰も探してくれなくて目から冷たいのが出ただけだ!!

「……………」

「止めて!! その冷たい視線止めて!! そうだ、俺も探してやる!! いいか」

「え……………うん、ありがとう」

なんとか話題を変えたな

「ほら、逸れないように手に掴まれ」

「う、うん……………／＼／＼　ありがとう」

手を取り合って、女の子の保護者探しに!!

まあ、簡単に見つかるとは思わないがな……………



「何処にも居ないな……」

「うん……」

悲しい、つか話題が見つからん

あれから3時間ぐらい探したが、やはり都会。人が多すぎて、全然見つからない

とりあえず、草原が生えている丘で一休み

「……ん？ どうした、迷子だったのにニコニコして」

「いや……なんか、こんな楽しいの久しぶりだな〜って」

「そうか？ お前も俺ぐらいなら、遊んだりしているだろ」

俺なんか、毎日ハッピーライフですから

頭じゃないよ？ 生活がだよ？

「アタシ……そんな友達居ないんだ。親もいっつも忙しくて、遊んでくれるのはトシやまつ姉ちゃんだけ」

「一人悲しいな〜『ギラ！』すんません」

この子、めつきめつちや怖！？

「けど、こんな楽しい一日は久しぶりだ。ありがとう」

「……………俺は桐生 竜間だ」

「え？」

なにホケテんだ

「テメエも名乗れ」

「！？ あ、アタシは前田 慶次！！／／／」

そうかそうか、君があのかの『花の慶次』と呼ばれている人が〜

凄いな……それ……は？

「ええええええええええ！！！！？？？ お、お前が『アノ』！！！！？？  
け、けけけけけ」

「け？」

ど、どうしよう……頭が混乱して言えない！！

俺は指を慶次に指しながら、フリーズしていく

「けけけけ」



二人の影が俺にとび蹴りをかまし、俺はそのまま吹っ飛んだ

「いや、すまん。慶次を助けて、こんな怪我をさせてしまつて」

「いや、もういいんで。子供保護団体には黙ってますよ」

「「「???」」」

よく考えれば、俺はまだ子供だから何してんだこの二人ってなる  
よな

たく、こんな破天荒だったか？ この二人

「じゃあ慶次、帰るぞ。家に帰ったら、まつのご飯でも食べよう！」

「ほら、行きますよ」

「……………」

慶次は俺の所に寄り、頬を赤く染める

なんだ？ 惚れたか？ だが、俺にはまだ十年……

『チユ』

「「「！！！！？？？」」「」

「竜間：／／／ その話、考えておくね／／／」

俺の頬ではなく、唇にキスしてきた

「じゃあね／／／」

慶次は前田家と一緒に帰り、俺はそのままぽつんと突っ立っている

な、なんだこの気持ち……………！！こ、心地よい……！！

そのまま5時間ぐらい、俺は肩を抱き合い皆から気持ち悪いという目線を食べらった



**第一幕 俺が転生した所はかなり強者！？（後書き）**

感想をください



## 第二幕 親父から離れて三千里

「うおおおおお!!!!?? 着火!!!」

「待てえええええ!! またサボるのかー!!!!??」

「聞こえない!!! 俺には聞こえない!!!」

今日もまた俺は親父の鬼修行を脱出した!!

新たな技、『着火』。親父対専用技であり、脚を着火のように一気にスピードを上げ、差を広げるといふ奇跡的に出来た技

たぶん親父は最近修行サボっているから、市場にも来るだろう

なら、久しぶりに外に出ようか? 賊なんて逃げればいいっしょ  
!!

「いざ、天 へ!!!」

スピードを上げ、俺は京から出た

「ふはははは！……！ 此処は何処だ！……！……！……！……！」

笑ってはみたが、何処か知らない村へとついでしてしまったわい！  
どうしよう、マジで何処！？ 必死に逃げたから、マジでわかん  
ない……！

北に向かったのか、南に走ったのか……

まあ、どうにかなるか

「さあて、なんか田舎っぽいな。まさか、忍の里なわけないよな  
く……！ ないない……！」

家も古く、田んぼが広い田舎

俺は自分で言い聞かせ、とりあえず前へ進む

「ねえーかすがちゃん。忍者遊びしようっ？」

「佐助、まだ私たちは忍者ではないから、そういうのは止めないか」  
……………どうやら、忍の里らしいですね

前に歩いている女の子二人が話しながら、忍者の事を言っている  
何処かで見たとような感じだが、とりあえず此処が何処だか……

「あのう……」

「「！！！？？」」

『ビュン！！』

うわ、話しかけたぐらいで消えたよ

なんだよ！！！！ 俺がブサイクだからか！！！！ イケメンならいい  
のか！！！？？

世の中平等なんて、俺は信じないぞ……

「ちつくしよおおお！！！！ 意地でも探してやる！！ 待ってる、  
この 共——！！！！」

全力疾走し、さっきの二人を探す

????side

うわゝ、何だあいつ

里の者ではないよね……？　じゃあ、他から来た人かな？

俺様たちは木の枝を使って移動し、とりあえず逃げている

「かすがちゃん。とりあえずどうする？」

「そつだな……」「うおおおおおお！！！！」「！？」

声がだんだんと近づき、もしやと思い下を見た

俺様たちに追い付いてる……凄い脚力

さっきの男の子だった

「待てー！ー！ー！！！！　俺、そんな悪い奴じゃねえから！！！！？？  
ちよつと！！　ほんのちよつとだから！！！！？？？？」

「ちよつとつてなんだよ！？」

「うるせえええええ！！！！　いいから止まれ！！　お願い！！！！」

怪しすぎるよ!? 逃げなきゃ!!

速さを増し、男の子から差をつける。これでなんとか……

「なめんなよおおお!!! これでも一応、女子の下着を見たく鍛えた脚力を————!!!」

「「本物の変態じゃん!?」」

「変態じゃねえ————!!! 俺は桐生 竜間だ!!!!」

名乗っているけど、変態に名乗るわけないじゃん!!!

もっと、もっと!!!

『バキ!』

「へ………?」

「!? 佐助!!!」

脚に力み過ぎて、枝を思い切り折ってしまった

しまった………!? やばい、この高さから落っこちたら、さすがに俺様でもヤバイ

「!?!?!?」

竜間 side

なっ!?! 糞、めんどい事になった!!

女の子が枝を折ってしまい、今まさに落ちている

糞おゝ!!! 考えている暇はねえー!!--!!

「うおおおおおおお!!! キヤツ!!--!!--!!--チ!!--!!--!!--」

「ほへ///?」

木と木を使つて渡り、女の子をキャッチした

はあ……こんなの、中級者向けだ。失敗したら、どうなるかかと

そのまま地面に着地し、女の子を下す

「大丈夫か?」

「え……えと///」

「怪我はねえか? すまん、変な所触ったか?」

「あの…/// 俺様、別に///」

女の子は困惑して、俺の質問に答えていない

しぐさは可愛いが、大丈夫か?

「佐助!!!?? 大丈夫か?」

「か、かすがちゃん……うん、うん。俺様は平気」

「一応、俺はダメだ」

「ダメなの!?」

いや、冗談だけど

ん？ かすが？ に、佐助？ あれえ、可笑いな？

もしや、このかすがってのはあの『かすが』で、もしや……

「お前、猿飛 佐助？」

「そう……だけど」

俺の顎は一気に地面に触れ、目玉も飛んでいる

はは、こりゃあないぜ。もしや、皆女体しているのか？

「ひゃつっつっつっつっつほーーーーーい!!!!!!」

「!?!?!?」

こりゃあいいい……ふふふ、ついに俺の時代到来……!

俺のバックは山が噴火しており、目が光っている

最高だね、瞼！ よくやった……!

「……おつとすまん。んで、大丈夫か？」

「う、うん…／／／」

「すまん。最初は変質者と思って逃げてたんだ」

「うん、正直だね君。嫌いじゃないけど」

俺の第一人称って、そうなんだね

「俺の名前は桐生 竜間だ！！ よろしく」

「私がかすが。一応この里の見習い忍だ。そして……」

「わ、わわわわ／／／！！ 私は／／／！！ さ、猿…／／／  
飛、佐助／／／！！ よ、よろしく／／／」

「（私！？ 一人称違うぞ）」

こ、怖いぞ。急にどうした、猿飛さん？

とりあえず握手、さっきの道へと戻った

「サンキュー！ 今日楽しかったぜ」

「ふん、まあ私も楽しかった。また来てもいいぞ」



仲良くなったのでかすがちゃんは、さっきの性格とは違うね

もう空はオレンジ色。カラスも鳴いている

「じゃあなー!」

「あ、あの／＼／＼!」

「ん？ なんだ？」

さようならしてカッコ良く去ろうとしたが、佐助に呼び止められた

「ま、また会えるよね／＼／＼!?!?!? 絶対に」

「ああ。じゃあな、佐助」

「／＼／＼／＼!?!?!?」

結構時間は経つが、走って帰るか

脚に力を入れ、俺は風の如くこの場を走り去った

佐助 side

なんたる俺様、なんか変な感じ／／／

胸が暖かく、忘れられない顔：／／／。頭がボーとする

桐生 竜間：／／／

「はぁ：／／／」

「?????」

**第二幕 親父から離れて三千里（後書き）**

感想をください

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5036z/>

---

戦国basara！？ いや、けど性別が.....

2011年12月17日05時48分発行